対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		食育推進事業						予算事業名		学校給食センター運営管理経費			
予算科目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	食育基本法				
				10	06	03	0501	経常経費	根拠法令				
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文 4-1生きる力を育む教育環境づくり(学校教育) ①教育内容の充実 9学校給食をいかした食育の推進						事業の区分		主要事業			
								担当課係等		給食センター 栄養指導			
事業期間		継続 (平成29年度～ 年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】					【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
学年に応じた指導により、食に関する理解を深め、望ましい食習慣を身につける。親子で給食作りの体験を通し、給食への理解を深める。地産地消を取り入れたバイキング給食の実施を通し、地域の産業への理解を深め、バランスのとれた食事の選択や楽しい会食の意義を学ぶ。					平成17年度の食育基本法制定、栄養教諭の登用等、国県の施策に基づき地方自治体として学校給食を通した食育事業の普及促進に努める。								
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】					【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】								
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導 ・親子で給食作りの体験を実施(給食センターしらべ隊) ・小学6年生対象のバイキング給食の実施、またはセレクト給食(デザート)の実施を検討 					市内小中学校の児童生徒・保護者及び教職員								
					【事業をとりまく環境の変化】								
					健康な生活を支えるための基本となる食育の重要性は高まっており、児童・生徒及び家庭での食に関する状況を改善する。特に子どものころからの習慣による食生活の改善は重要課題となっており、継続して取り組んでいくべき課題である。								
【令和3年度 事業内容】				【令和4年度 事業内容】				【令和5年度 事業内容】					
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導 ・親子で給食作りの体験を実施(給食センターしらべ隊) ・小学6年生対象のバイキング給食の実施、またはセレクト給食(デザート)の実施を検討 				<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導 ・親子で給食作りの体験を実施(給食センターしらべ隊) ・小学6年生対象のバイキング給食の実施、またはセレクト給食(デザート)の実施を検討 				<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導 ・親子で給食作りの体験を実施(給食センターしらべ隊) ・小学6年生対象のバイキング給食の実施、またはセレクト給食(デザート)の実施を検討 					
■事業費													
		R01年度		R02年度									
財源内訳	国庫支出金	0		0									
	県支出金	0		0									
	地方債	0		0									
	その他	35		40									
	一般財源	165		160									
歳入計(千円)		200		200									
歳出内訳	節(番号+名称)		金額(千円)		金額(千円)								
	10 需用費		200		200								
歳出計(千円)(A)		200		200									
伸び率(%)				0.00									
備考	総合計画 114 ページ 予算書 192 ページ												

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	イベント開催回数	回	目標	1.00	1.00	1.00
	給食センターしらべ隊		実績	1.00	0.00	0.00
	食に関する指導の実施	回	目標	108.00	108.00	108.00
	栄養教諭による学校訪問		実績	124.00	0.00	0.00
成果 指標	イベント参加人数	人	目標	40.00	40.00	40.00
	給食センターしらべ隊		実績	43.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	必要性は高くなっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	学校給食を通じた食育の推進は、栄養教諭（県職員）や栄養士（市職員）が主体となっている。
	手段の妥当性	A 妥当である	学年に応じた食の指導を実施している。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	イベント開催時の材料費は参加者の実費負担としている。食に関する指導は、市内小中学校を計画的に巡回し、効率よく実施している。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	イベントに関する告知は、お知らせ版・ホームページ等で行っている。食に関する指導は、市内小中学校全クラス（中学3年生を除く）を訪問している。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	おおむね水準に達している。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	実施計画通りに進行している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
<ul style="list-style-type: none"> 給食センターしらべ隊は、例年人気のイベントになっている。募集人員以上の応募があり、アンケート結果もおおむね好評である。 食に関する指導は、栄養教諭による学校訪問により、各学年に応じた細やかな指導を行っている。 児童生徒の食を通じた健康増進のためには、学校・家庭・福祉分野等との連携・推進が課題となってくる。 			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
<ul style="list-style-type: none"> イベント受付時には定員を上回る応募があり。受け入れ態勢の検討が必要である。 児童生徒が望ましい食習慣、食生活を身につけるためには、家庭での実践が不可欠である。保護者の食育への理解を得るため、家庭への働きかけも必要である。 			

■方向性

<p>1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p>☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開</p> <p>☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置</p> <p>方向性の具体的内容</p> <p>食に関する指導を継続実施するとともに、学校と連携し、給食残量の削減に努めていく。</p>
<p>2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p>☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開</p> <p>☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置</p> <p>企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）</p> <p>上記評価のとおり。</p>